



2024年4月9日

各位

会社名 株式会社放電精密加工研究所
 代表者名 代表取締役社長 村田 力
 (コード番号 6469)
 問合せ先責任者
 役職・氏名 取締役
 財務・情報開示・海外子会社担当
 大村 亮
 電 話 045-277-0330

2024年2月期通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2023年10月3日に公表いたしました2024年2月期通期（2023年3月1日～2024年2月29日）の連結業績予想と実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想と実績値の差異

2024年2月期通期 連結業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	12,279	123	116	94	13.27
実績 (B)	12,160	230	169	231	32.48
増減額 (B-A)	△119	106	53	137	—
増減率 (%)	△1.0	86.5	46.0	145.6	—
(ご参考) 前期実績 (2023年2月期)	11,679	△311	△322	△1,288	△180.88

差異の発生理由

連結業績予想に対して、金型セグメント及び機械装置等セグメントにおける売上高の減少により、連結売上高は119百万円の減収となりました。しかし、動力費等の変動費の減少、及び固定費の削減により、営業利益は106百万円増益となりました。経常利益につきましては、第三者割当増資に伴う株式交付費を54百万円計上したことにより53百万円の増益となりました。さらに、親会社株主に帰属する当期純利益においては、繰延税金資産の回収が想定を上回り、税金費用が61百万円減少した結果、137百万円の増益となりました。

セグメント別の売上高は、放電加工・表面処理セグメントは航空機エンジン部品、ガスタービン部品、遠心圧縮機部品の増加により増収となりました。一方で、金型セグメントは、アルミ押出用金型の減少、機械装置等セグメントでは、プレス機の販売減少により減収となり、全セグメント合計では1.0%の減収となりました。

営業利益に関しては、金型セグメントにおける自動車排気ガス浄化用のセラミックスハニカム押出用金型が増益

となりましたが、アルミ押出用金型の減益により、同セグメントは41百万円の減益となりました。機械装置等セグメントでは、プレス機の販売台数の減少などにより48百万円の減益となりました。一方で、放電加工・表面処理セグメントは、航空機エンジン部品、及び遠心圧縮機部品の増益により123百万円の増益となりました。また、経費管理の強化により全社費用が73百万円減少し、営業利益が106百万円の増益となりました。

以上